

2007年度帰国隊員報告会

障害児教育分野における青年海外協力隊 派遣現職教員サポート体制の構築

筑波大学
特別支援教育研究センター
前川 久男

2008. 1. 5

事業の概要

- 筑波大学にある心身障害科学研究、附属障害教育5校と特別支援教育研究センターにおける専門性と実践的研究等を基盤とした高度な職業人養成機能の活用
- 研修プログラムと人材の活用
- 様々な教育的リソースの活用
- 大学間連携や機関連携で活用してきた独自の情報ネットワークの活用



- 派遣隊員のサポートニーズ調査
- 派遣前研修の更なる改善と発展
- 派遣隊員の課題に対する的確な対応(即応性・適切性・多様性)
- 障害に関わる各種リソースの集積と提供(教材・人材・指導法等)
- 任国における人材育成への協力
- 巡回サポートの展開
- 帰国隊員とのネットワーク構築

ニーズ調査の実施

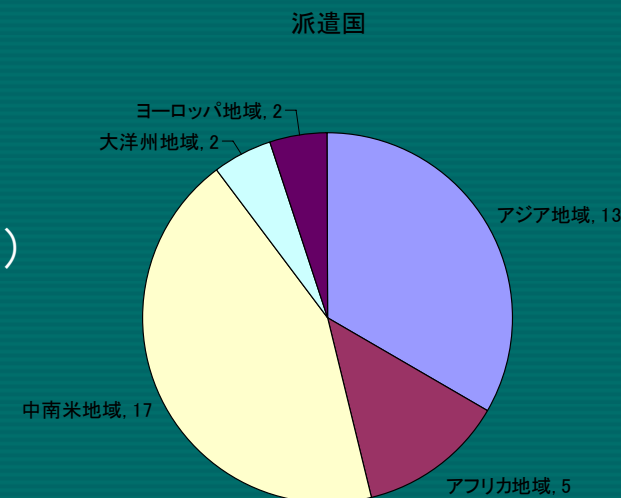
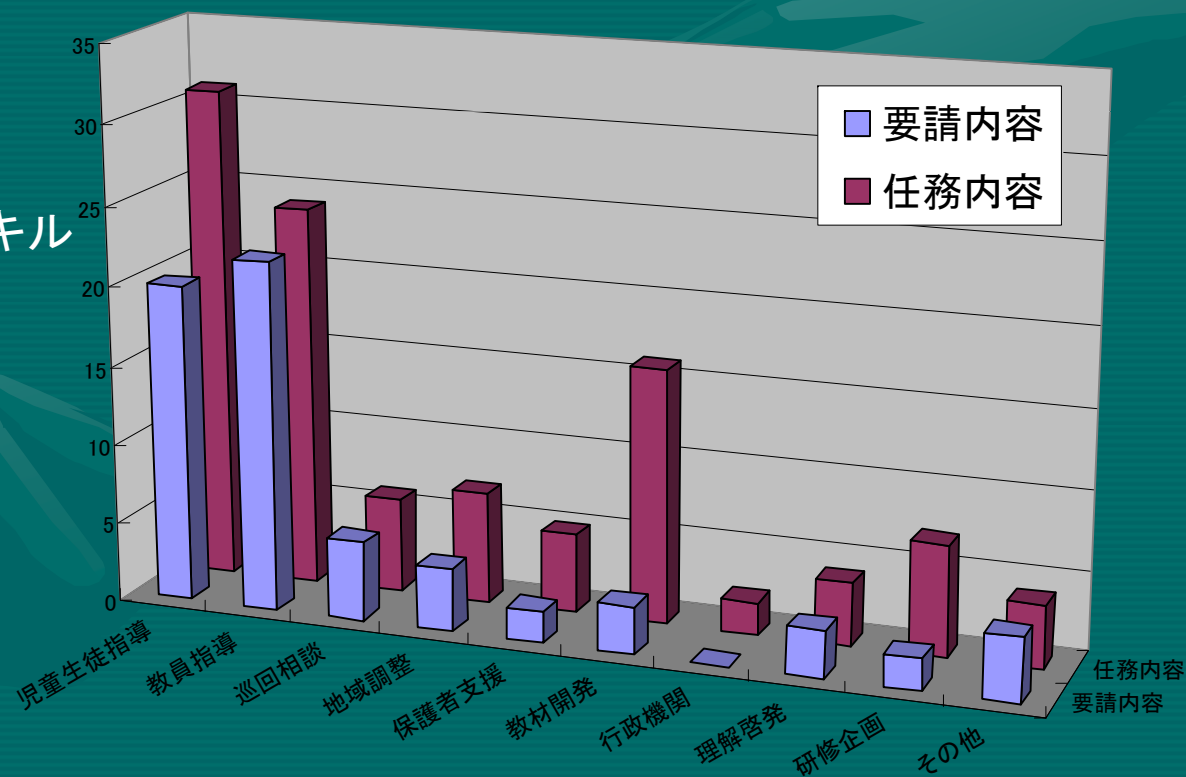
派遣中の養護隊員を対象(選択式アンケート調査 2006)

59人中39人 :回収率66.1%

質問項目

- ・派遣国及び活動内容
- ・勤務経験と基礎資格等
- ・応募動機と展開したい活動等
- ・派遣前研修のニーズ
- ・派遣中のサポートニーズ
- ・通信環境及びインターネットスキル

応募時の要請内容と実際の任務内容



現地調査及び巡回相談の様子



ジャマイカ、ランダロ特殊教育学校



JICAによるブックレット贈呈式(ジャマイカ)



マレーシア、グラゴー小学校

ニーズ調査から

- 国内での経験年数に関しては10年未満の隊員が半数を超える
- 派遣国では、担当者のいない領域を担う实际的担い手としての期待が多い
- 研修ニーズとしては、指導法、障害理解の内容が多い
- 派遣国に必要なサポートとしては、「指導法」と「人材養成」をあげている
- サポートの形態として、「専門家の派遣」「隊員の増員」が多い
- 帰国隊員との情報共有及びアドバイスを求めている傾向が高い

現地調査から(ジャマイカ・マレーシア)

- 隊員個々のスキルに対する期待が大きい
- 授業における具体的な成果を望んでいる
- 教科・領域に基づいた指導を中心とした授業スタイルはほぼ確立されている
- 障害の理解や障害特性に基づいた指導の見通しは不十分(特に重度児、自閉症)
- ワークショップ、ブックレット作成など教員のスキルアップに資する成果への評価が高い
- 現地スタッフの人材養成への期待が大きい

2007年度の事業内容

○ブログ開設によるサポートネットワークの構築

体制

- ・派遣隊員をサポートするサポートパートナー(筑波大学、附属特別支援5校)の支援
- ・引き継ぎ、現地情報などの帰国隊員の知識・経験の活用

内容

- ・子どもに関わる知識、情報の提供
- ・アセスメントに関わる情報の提供
- ・指導法、教材等の提供
- ・任国の教員のスキルアップへの協力
- ・有用なリソースの紹介
- ・現地活動に関わる情報交換



2007年度の事業内容

隊員自学教材集の作成(DVD教材として)

○目的

- ・隊員自身が、障害の特性や指導のポイントをより深く理解する
- ・任国の教員のスキルアップのポイントを理解する

○内容(自閉症)

- ・障害理解
- ・指導のポイント
- ・教材の作成と活用
- ・指導計画と実施場面



2007年度の事業内容

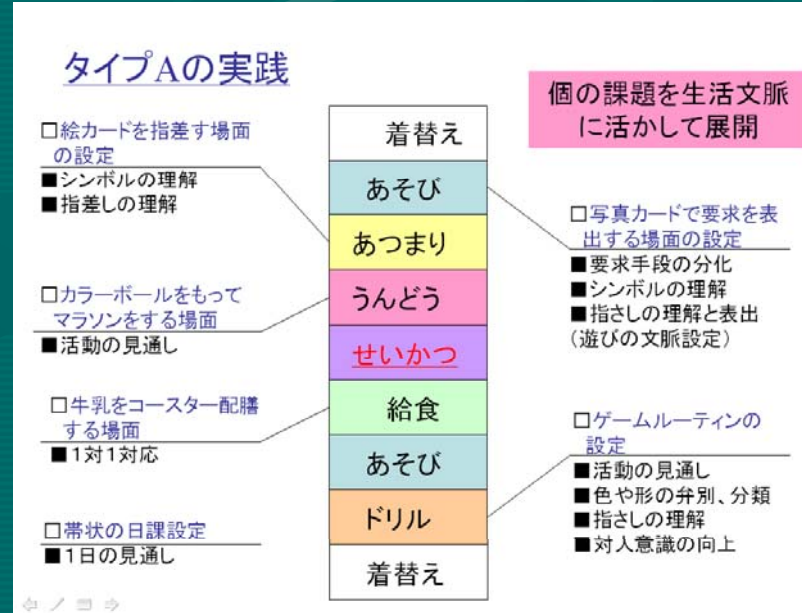
隊員活動素材集の作成(CDに収納されたファイルとして)

○目的

- ・隊員自身が、学校の教育活動で活用する
- ・ワークショップやブックレット作成の素材として活用する
(隊員が現地語に翻訳したり、ファイルを加工して)

○内容(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由)

- ・教材と活用
- ・指導計画と授業実践
- ・障害特性と指導のポイント
- ・教材写真集
- ・日本の障害児教育(VTR)
- ・社会的自立の多様なスタイル(VTR)



知的障害教育の日課の考え方: パワーポイント資料